

申請者	学科名	保健福祉学科	職名	講師	氏名	新山 順子 印
調査研究課題	保育者養成教育における即興とコミュニケーションを重視した身体表現の実践とその検証					
交付決定額	10万円					
調査研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	新山順子	保健福祉学科・講師	舞踊教育	研究総括・責任者	
調査研究実績の概要	<p>I. 研究の目的と方法</p> <p>2011年度より改訂・実施されている保育士養成課程の新カリキュラムでは、今まで以上に「実践力や応用力をもった保育士を養成する」（「保育士養成課程等検討会中間まとめ」2010年3月）という方向性が明確に打ち出されている。児童・家庭問題の複雑化に伴い、養成機関ではこれまでも保育現場の多様な課題に対応できるように、授業の工夫を行ってきた。しかし、現在のところ、保育者養成における身体表現の授業実践に指針はなく、担当教員の専門性により、様々な授業が行われている。筆者は、保育者養成では、自ら動きを創出したり、他者から動きを引き出したりするコミュニケーションの体験が重要であると考え、人との関わりから展開する即興的な身体表現の授業を行っている。しかし、実際のところ、このような授業から学生が何を学びとり、卒業後は授業で学んだことをどのように保育実践に役立たせるのかという点については、不明である。身体表現教育を充実させるためには、授業の学びの様相や保育実践への有用性を解明することが必要である。保育者養成教育における身体表現教育を構築するための研究の一部として、今年度は次の3点について研究を推進した。第一に、保育者養成における身体表現教育に関連する研究の動向と課題を先行研究から見出す。（文献研究）第二に、既にデータを収集していた保育者志望学生と地域の障害児が交流する実践の検証と保育者養成カリキュラムへの導入の可能性を探る。（実践研究）第三に、「身体表現」の授業実践データ（具体的には授業実践の映像と受講学生の内省）の継続収集とその整理・分析である。（実践研究）</p> <p style="text-align: right;">次頁に続く</p>					

<p>調査研究実績の概要</p>	<p>II. 研究の概要</p> <p>1. 保育者養成における身体表現教育に関連する研究の動向と課題</p> <p>国内の研究を中心に、保育者養成における身体表現教育に関する研究の動向を整理し、実践及び研究上の課題を明らかにした。特に、筆者が授業実践の中核とする「即興」、近年保育学の領域で研究が推進されている「身体」、授業実践の実際にも迫るため「授業実践（保育者養成・特に身体表現）」という3つのキーワードに絞り込み、関連する研究成果を取り上げて論述した。「即興」や「身体」に関する様々な論考からは、「即興」の重要性や「身体」への関心の高まりを確認することができ、保育者としての身体、あるいは身体知という新しい視点の形成にも繋がっていることが確認できた。「授業実践」では、「表現」領域の制定を機に、幼児理解や援助に関する研究が蓄積されているが、身体表現の授業実践の研究は未だ推進されていない状況が浮き彫りにされた。以上、整理した先行研究の概観を踏まえて、今後の研究及び実践において取り組むべき課題を3点にまとめた。身体表現の特性に着目した研究の推進、カリキュラムの内容と方法の精査、幼児の身体表現の研究の蓄積の活用、等である。</p> <p>2. 保育を学ぶ学生と障害児が交流する身体表現の実践とその教育的価値</p> <p>保育を学ぶ学生と障害児が交流する身体表現の実践とその教育的価値の検証を行い、保育者養成における新しい授業の在り方を構想する手掛かりを得ることを目的とした。実践の検証には、2010年に開催されたダンスワークに参加した学生の内省を使用し、学びの様相を分析した。学生の学びを整理すると、以下の三点に総括できた。第一に、援助の経験を積み重ねることで、行為をしつつ援助を行うことが可能になり、子どもの動きの模範となる等、身体表現に相応しい援助も出来るようになった。第二に、活動に参加することが難しい子どもについては、適切な援助方法を絶えず模索する姿勢を持つことができた。第三に、ダンスの指導においては、楽曲の選択や振付け等、複数の側面からの気付きを得て、充実した指導を行うことについての思索を深めることができた。最後に、障害児と交流する実践の授業化の可能性について、「保育内容」科目への導入を中心に検討した。</p> <p>3. 保育者養成における即興表現の授業実践と学びの特性</p> <p>保育者養成の身体表現の授業において即興表現を中核とする実践を行い、受講学生の学びの特性を明らかにした。具体的には、受講学生の内省を量的分析及び質的分析により検討した。授業実践データは、2013年4～5月に開講された保育士養成必修科目「身体表現Ⅰ」の授業、計7回分である。受講学生は23名で、実践者は新山である。KHコーダーによる量的分析の結果では、行為に着目した場合、「身体表現の主要行為」である「動く」「作る」「見る」を中心に、「感覚的行為」、「関係性から生じる行為」、「思索的行為」、「理解や判断の行為」等の出現を確認することができた。また、代表的事例の質的な分析によれば、その内容は、身体や動きへの実感から、表現の工夫まで広がりがあり、仲間との関係性の中で深められる様子も確認できた。</p> <p>III. 課題</p> <p>これまでの研究成果を整理して、保育者養成における身体表現の授業、特に「即興」を中核とした授業の有用性やその波及効果などについて、総括的な考察を行う。また、海外の先行研究等も調査し、文献研究をさらに充実させる必要がある。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>【論文】 1. 新山順子・高橋敏之：「保育を学ぶ学生と障害児が交流する身体表現の実践とその教育的価値」、『運動・健康教育研究』第21号第1号，日本幼児健康教育学会，2013年8月。 2. 新山順子・高橋敏之：「保育者養成における身体表現教育に関する研究の動向と課題」、『教育実践学論集』第15号，兵庫教育大学連合大学院教育学研究科，2014年3月刊行予定・印刷中。 3. 新山順子・西山修：「保育者養成における即興表現の授業実践と学びの特性」，日本保育学会誌『保育学研究』投稿審査中。</p> <p>【研究報告】 1. 新山順子：「保育を学ぶ学生と地域の障害児が交流するダンスプログラムの検討」、『OPUフォーラム2013』，岡山県立大学，2013年5月。</p>